

## 第18回区民車座集会意見交換内容

※ 読みやすさ等のため、文意を損なわない範囲で、重複表現、言い回しなどを整理しています。

- 1 開催日時 平成27年11月27日（金） 午前11時30分から午後12時50分
- 2 場 所 川崎市立京町中学校 2階被服室
- 3 参加者数 参加者17名、傍聴者7名

### （1）市長挨拶

皆さんこんにちは。今日は朝から出前授業をやっていただきありがとうございました。私も最後の視聴覚室での発表会、大体3分の2くらいの生徒さんの発表を聞かせていただきました。大変子ども達にとって刺激になったのではないかと思います。

こういった機会を使わせていただいて、区民車座集会ということで、川崎区で3回目になります。私が就任して今、ちょうど2年になりますが、この間、毎月各区を回って区民車座集会をやらせていただいて、2巡目までは同じ方式で、テーマを決めずに定員30名でということですと続けてきました。3巡目からは各区、それぞれ区長提案で、どんな方式でやるかというのは各区に任せておまして、今回は川崎区ならではということで、他の区では決して集まることのない、集められない、そういった方々に今日をご参加いただいて、御意見をいただければと思っています。有意義な会となるよう、どうぞよろしくお願いいたします。

### （2）意見交換

西村さん：東京ガス川崎支店の西村と申します、よろしくお願いいたします。普段から何度かお話させていただいておりますが、市内の小中学校を中心として、弊社独特のプログラムではありますが、出前授業というのをやらせていただいております。教育委員会のほうには定期的に活動報告をさせていただいているんですが、行政側のほうには特にそういったこともしていないことから、行政の立場として、一企業のそういう活動について、どのような受け止め方、評価をされているのかというようなことも含めてお伺いできればと思います。よろしくお願いいたします。

市長：西村さん、どうもありがとうございました。今日の授業もそうですし、御社独自でも御協力いただいているということで、本当にありがとうございます。

授業そのものは見られなかったんですけども、今日の発表会を見させていただいて、素晴らしいなと思いました。というのは、昔だったら自分の父親などの仕事が分かりやすかったと思うんですが、今は子ども達が自分の親の仕事だとか、周りの働いている人の姿を見ることが少ないと思うんですね。親子の会話の中でもお父さんの仕事を感じる事がないので、

こういう機会に仕事とは何ぞや、働くとは何かということを知ってもらうのがとても大事だと思いました。特に、今日の感想で、学校の授業でやっていることが何か意味があるのかというのがありましたが、自分の学んでいる意味が分かったというのは、学校では感じる事ができないことだと思います。学校の先生がなかなか教えたくても教えることができない、その生の感覚を皆さんから教えていただく大変良いきっかけだと思っています。勉強する意味が分かったということと、働くとはどういうことなのか、世の中どういうふうに戻っているのかと、先程もコメントの中でありましたが、自分の着ている服だとか靴だとかを作ってくれている人たちがいて、それで僕たちの生活が成り立っているということ、実は当たり前のことだけれども、その気づきのタイミングが失われているのが今の時代だと思います。

そういう意味で、企業の皆さんがこうして学校の中に入ってきていただくことがどれほど大切かということ、わかっていたつもりではありますが、あらためて今日はそれを感じることができました。ぜひ、これからもよろしくお願ひしたいと思っています。

**佐藤さん**：味の素川崎事業所の佐藤です。中学校の給食導入について、確認させていただきたいと思っています。私自身も、中学校の給食導入については、未来を担うお子さんたちへの食育や地産地消、あとは共働きをされているご家庭のサポートということで、必要であると思っています。

これ以外にも、私自身は小学校の時、給食の時は給食で、中学校はお弁当でしたが、中には一人でポツンとお弁当を隠しながら食べていたりとか、みんなでグループごとに食べているところから外れて食べていたりということがありました。今回教室の中で、家庭と一緒に、一体感、テーブルで食べていくということの中では、好き嫌いをなくしたり、全部食べ切ったり、そういったところでは非常に一体感が醸成できるのかなと、クラスの中で一体感が生まれるのかなと思っていますが、その辺市長はどのようにお考えなのかと思って、確認させていただきたいと思っています。

**市長**：ありがとうございます。中学校給食、今まで川崎ではなかったんですが、29年度中に全校実施をめざして今取組を進めているところです。中学校給食をやっていくにあたって最も重要なことは、食育の部分だと思っています。特に心の成長、体もそうですけれども、発達が著しいときに正しい食生活を身に付けていくというための食育は非常に大事だと思います。大人になってから生活習慣病がどうのこうのというよりも、食の乱れが一番激しくなる中学校のところでしっかりやっていくということですね。

あと、おそらく味の素さんは日本食というものを取り上げることによって、昆布の出汁だとかそういうものをもって塩分を控えましょうというのを、世界中に広めておられますよね。こういうこともやはり子ども達にしっかりと教えていかなければならないかなと思います。特に脂っこいものとか塩分を減らしていくか、こういうのを子どもたちの段階でしっかり身につけさせていくことも大事ですし、それを同じテーブルで学び合うことができるということが大切ですよ。スクール形式で「みなさん、塩分を取るの駄目ですよ」という話をするよりも、一緒にテーブルで食べながら、なぜこういう食事になっているのか、栄養分は

こうなっているんですよということを、共に食べながら共に学ぶということが、この中学校給食を一つの題材としてやっていくことが大事だと思っています。

そういう意味では、共働きが多くなっている世代とかそういう背景もありますけれども、こういった食育のところに力を入れていくことが、この中学校給食の大きな意義だと思っていますので、そういうところに力を入れていきたいと思っています。

**三星さん：**川崎市民活動センターの三星と申します、よろしくお願いいたします。今日せっかく福田市長さんとお会いできるので、お話をさせていただきたいんですが、出前授業のほうは先程もうお話がありましたので。私は寺子屋事業のことにとっても関心があります。子ども達は今、自己肯定感がなかなか持てない子が多く、それによって学校内でもいじめ問題が起きて不登校になったり、悲しい事件に結びついたりということも現状だと思います。

寺子屋事業は今、運営団体が増えているということで、子ども達が地域の人とかかわる場を多く持ち、今仕事をしている人、仕事をしてきた人から色々なことが学べると思いますし、日常の家庭だけの接し方では本当に限られた人間関係だと思うので、寺子屋事業を通して、本当に様々な方がいるんだなということを肌で感じてもらえることがとても大事でして、嬉しいなと思っています。そして、そこにかかわる大人たちが、目の前にいる子ども達とどのようにかわるのか、どのような言葉かけをするのかによって、その後一人一人が自分の自己肯定感を持てるかということにも影響してくるのではないかと考えておりますので、そこはぜひお願いしたいなと思って、今日お話をさせていただいておりますが、その辺についても市長さんがどのようにお考えかお聞きできればと思います。お願いいたします。

**市長：**地域の寺子屋という活動を、今、川崎市で進めています。私の公約の一つであるんですけども、学校で学ぶことだけではなくて、地域で学びの場というか、お互いに教える方も教えられる方も、いわゆる地域の先生方ですよ、皆さんも、そういう地域人材がこれだけたくさんいらっしゃるのに、子ども達との接点がないというのは非常にもったいないことで、地域の中で学ぶ場ということで地域の寺子屋をやっています。去年は8校で、今年なるべく各区3校ずつやっというということで、7区ありますから大体21校まで増やっという。ただこれは、行政が3校ずつやりましようと言ってもあまり意味のない話で、地域の学校だとか、地域の運営団体の方々が盛り上がってきて、うちのところでも寺子屋やりたいなという意識が芽生えてきて、まさにボトムアップでできていくということが大事だと思っています。

地域の寺子屋は、何ととっても自己肯定感、学校の授業が分かるということをメインに進めています。川崎の子どもは、全国の学習状況調査で見ても、自己肯定感が全国を下回っています。まず学校の授業が分かるということが大事で、授業が分かることによって私はできる、やればできるんだという自己肯定感につながってくるので。私もいくつか学校を視察していますけれども、授業が分からない子ども達が、分からない、授業に参加しない、やっぱり駄目だと、生活態度が荒れるとそういう負の連鎖につながっていくというのを、分かる授業で解決していく。そこで、分かる授業だけではなく、地域の皆さんとのきずなで褒めてあ

げる。あなたいいところあるね、すごいねよく分かったねと、あるいはこんなことができるんだということで、学校の授業以外の生活で、そういう気づきを持たせてあげると、子どもたちは嬉しいということで。寺子屋もいくつか見せてもらっていますが、やはり地域のおじいちゃんおばあちゃん世代ですね、その人たちが子ども達にとっても丁寧に教えてくださるんですね。足し算掛け算という算数をドリルみたいなもので見てあげて、それでよくできたねと細かく見てあげる。なかなか学校の先生がひとりの子にずっとつきっきりでやるというのは難しいので、そういうところで褒めてあげること、色々な角度で褒めて認めてあげることが自己肯定感につながると思います。

これは川崎だけの問題ではなくて、日本全体に自己肯定感が低い子ども達がいるというのは私達にとって悲しいことで、自己肯定感ができてきた上で、何を夢見ようということが出てくるので、自己肯定感がない中で夢を持ちましようと言ってもなかなか難しいですよ。そういう土壌をつくっていかねばいけない、そのために地域の寺子屋というのはひとつのツールになるのではないかなと思っています。

**國分さん:** 昭和電工川崎事業所から参りました國分と申します。出前授業も今回2回目ということで参加させていただいています。本日は子どもの教育についてお話をさせていただきたいと思うのですが、今年の2月に川崎の中学校1年生のとてもショッキングな事件がありまして、同じ子どもを持つ親として非常にショックでした。教育委員会を含め、学校で何をしなければいけないのか、親として子どもの安全をどうやって守るのか、それから行政のほうも、教育委員会と市長とでは組織的にまた違うと思うんですけれども、川崎市として子どもに対するそういった安全への取組や改革など、こういった視点でというのがあればお話しいただきたいと思っています。

**市長:** 今年の2月の中学生死亡事件は本当にショッキングで、特に、被害者の方も加害者も、川崎市の子もだったということが衝撃でありました。以降、どうしてこうなったのかという庁内の検証委員会と、それから外部の有識者の皆様からの第三者としての報告書もいただいて、それらをもとに、すぐにできるもの、あるいはもう少し中長期にかかるものに分けて取組を進めています。具体的なアクションプログラムという形で来年から始めるものを今取りまとめているところです。

今國分さんが、教育委員会と市長部局で少し立場が違うのではないかとおっしゃいましたが、そこがやはり問題でして、私たちが行政をやっている、例えばあるAさんという人、教育にも関わるだろうし福祉の分野にも関わるだろうし、色々な分野がそれぞれに関わることは関わっているんですが、その人一人として見たときに、横のつながりががないことによって情報がうまく共有されていないというケースが、子どもの世界にもお年寄りの世界にも色々な形であるところが問題だと思っています。今回の事件も、検証してみると、みんなそれぞれ関わっていたんです。それなりの情報は持っていた。しかしまさか、こんなことになるとは思わなかったからという一步の踏み込みが足りなかったんですね。いつも私たちは連携というんですが、連携というのはとてもきれいな言葉ですけれども、一步間違えるとみ

んなで球を拾い落とすというか、真ん中にボールを落としてしまうという現象が常に生まれるという状況になるわけで、みんながもう一步前に出なければいけなかったというのが今回の一番の反省です。これは子ども達だけではなく高齢者のこともそうですけれども、ケアを必要としている、困っているということに対して、みんなで球を取りに行く、その一步の意識が今後何よりも大切になってくるだろうと思っています。

ですから、仕組はいくら作っても、私たちの意識の中というのが一番変革が必要なところで、そこは今回の事件を受けてということだけではなく、この前高齢者の施設の件もありましたし、あるいは火災の事件もあって、色々な事件がありましたけれども、色々な部局で法律的には正しくやっている、ただ法律的に正しいからといって人を守るわけではないことを、私達は肝に銘じて日々の仕事に取り組みなければならないということ、今回大きな教訓にさせていただいて、前に進みたいと思っています。

**國分さん:**最近ではマスコミ報道なども出ませんよね。今まとめられているプランなども、我々が積極的に情報を見に行き、そこでどういうことがなされているのか、検討されてこの先進むのかということ、問題意識をもって見に行きたいと思います。先程言われた組織の在り方、そこでたぶん問題もあったと思います。

個人的なことですが、自分の子どもが学校で色々ありまして、その時に学校の先生や教育委員会の方とお話をする機会がありました。その時に、ちょっとおかしいな、誰も何も決められないなという感覚に陥ったことがありました。我々も、先生や教育委員会の方たちと話をしてみると、今の世の中個人情報とか色々な点で、言葉は悪いですが、誰も責任を取らない、発言をしない傾向があって、その背景に何があるのか、我々の中学校、小学校時代とは世の中がまるっきり変わってしまっているような気がしました。

学校の先生はやる事が非常に多くて、もう少し教員の教育を含めて人の手当てをするなど、学校問題はいろいろありますので、学校の先生のフォローも必要ではないかということを感じたところではあるので、そのあたりも今後の課題として取り組んでいただきたいと思っています。

**市長:**ありがとうございます。今、川崎市で力を入れて進めているのが、児童支援コーディネーターという役割の職種の特任化した教員を増やすということです。不登校とか特別支援が必要な子ども達が、今までは学年が上がるたびに、この子はどういう指導が必要だということを担任同士が申し送りのようなことをして、学年が変わるごとにまた説明しなければならず親が困るという、連携が悪いということがあったんですが、それを特任化することで一人の子を継続的にちゃんと見ることができ、問題解決に向けて支援コーディネーターが中心となって担任や区の組織など色々なところの解決になるキーマンになる、そのために特任化する取組を進めています。

学校も問題が非常に多岐に渡っている時代ですので、人をバンバンつけるわけにはいかないので、そういった工夫をして、質の高いものを作っていきたいと思っています。縦割りのないように、継ぎ目なくやりたいと思っています。

**栗林さん**：日立ソリューションズ東日本の栗林と申します。私からの質問は、川崎駅の北口の開発についてになります。開発中の北口のすぐ側のビルに弊社があるため、毎日その北口の開発をしているところを通り過ぎるのですが、出口をひとつ追加するくらいかなという認識でいたところ、1年2年かかってもまだ開発しているな、と。実際に3、4年かかる見込みだと思うのですが、この展望について、出口をひとつ増やすだけではなくて、こういう将来を想像して今開発を進めているというところをお聞きしたいなということで、ほかの方の質問に比べれば素朴な質問で恐縮ですが、お聞きしたいと思います。

**市長**：ありがとうございます。皆さんご存知の通り、川崎駅周辺はものすごく通勤の時に混雑しています。東口も西口も企業さんが増えていきますので、さらに混雑度が増しているという状況です。今おっしゃっていただいたように、北口の改札を作っています、今工事をしているので皆さんご存知だと思いますが、ちょうど東口ではアゼリアのところにつながり、西口はラゾーナにつながるということで、一本通るような形になるわけです。それと、今の東西自由通路の部分ともつながるという形で、かなり回遊性が高まると思っています。

今回の開発で北口ができますと、京急との接続というのが、さらに利便性を良くしていく意味で、今度は京急周辺の開発も始まっていきます。回遊性が高まるということで、より利便性が高まるのではないかと思いますし、北口がまだできていない段階から、今度は南口改札もちゃんとやってくれというような地域からの要望もたくさんいただいていて、川崎駅周辺は拠点としての役割が非常に重要になってきています。半年ほど工事が延びてしまっているのですが、しっかりと進めていきたいと思っています。

いずれにしても、利便性のいいように、かつ回遊性を高めていくことは大事なことだと思っていますので、完成のあかつきにはもう少し便利になるのではないかと思います。

**田村さん**：J X日鉱日石エネルギー川崎製造所の田村と申します。昨年川崎に転勤になりました、毎日川崎駅を利用しています。先程市長からもお話があったように、利用者が非常に多くて駅が活性化しているところを毎日使っているんですけども、駅のエントランスというか、川崎の顔であるところからバスを使うまでの動線の中でゴミがあったり、道路自体があまり美しくなくて、道に座っている方、住んでいるような方もいらしたりします。

私ども企業としても、色々な方をお招きする際に川崎駅を使っていますので、掃除をしないとは言えませんが、もう少しきれいにするような構想があるとか、開発に合わせてこうしていくつもりだとか、そういったお考えをお聞かせいただくと、お掃除については早急にクリーン作戦のようなものをぜひしていただきたいと考えています。よろしくお願いたします。

**市長**：本当に、これだけ利用されている方が増えている中で、ゴミや吸い殻が落ちていたり、落書きがされていたりということで、美観の問題からすると非常に問題があると思っています。今、週5回、朝から昼までという形で清掃をやっているんですが、それでもまたゴミが

増えていると、特に残り2日のやっていないときは非常にゴミが目につくということで、私も非常に懸念をしています。

今、大谷区長とも相談して、とにかく表玄関をきれいにしていこうということでやっているところです。今週末も、落書き消しをみんなでやろうということで、川崎区内の方々に参加していただいて、地域の学校、地域の企業の皆様にもご参加いただいて、警察と私たち行政とみんなで落書き消しをやります。何ヶ月か前に私も参加してやってきたんですが、特に東口でいうとさいか屋さんのところが大きな落書きが書いてあり、ああいうのはニューヨークの例ではありませんが、やはり汚いところにはどンドンごみを捨てていくということを誘発するため、とにかく初期消火を早くするということが大事だと思っていますので、まだまだ課題はたくさんありますが、みんなできれいにしていきたいと思っています。

そして、たばこの路上喫煙だとかポイ捨てについても指導員が回っているんですが、市長への手紙でも非常にそういう御意見が多いので、まんべんなくやるよりも一週間、人数も徹底的に集中させて強化するとか、そういう運用の仕方もやったほうがいいのではないかと考えています。そのようにいろいろ工夫してやってみたいと思います。

**田村さん：**ありがとうございます。市長の意気込みを伺いまして、社に持ち帰って報告したいと思っています。美しいところにはゴミは捨てられないと思いますし、利用している人たちの意識向上も必要だと思いますので、引き続き、視点や考え方を変えたりしてきれいにしていくということで、私たちの会社でも役立つことがあれば協力したいと思います。

**松元さん：**JFEスチール、旧日本鋼管NKKに勤務している松元と申します。住まいは鶴見のため、鶴見線や京浜東北線を使って通勤しているのですが、約40年近く川崎市に勤務をしている立場で、個人的な視点で質問をさせていただきたいと思っています。地区限定で大変申し訳ありません。

田村さんのお話にもありましたが、2020年に東京オリンピックを控えて、日本の玄関口の羽田に隣接する川崎区、その近くに弊社もありますが、東扇島はやはりゴミ問題、不法投棄が非常に目につきます。市長のキャッチフレーズになっている「最幸のまちかわさき」、これからも川崎に住みたい、あるいは住みたいまち川崎、最幸のまちかわさきとなるためには、イメージアップ、知名度アップが非常に大事だと思っています。オリンピックを控えて、ぜひゴミ問題、不法投棄問題について、東扇島だけでなく川崎市全体にこういった問題はあるとは思いますけれども、ぜひ市長からそういったことへの対策についてお聞きしたいというのが一点です。

そしてもうひとつ、南武支線の浜川崎線に新駅ができるということを伺っています。聞くところによると、ちょうどこちら側、小田側に駐輪場ができるということを知っておりまして、予算やスペースの関係だと思うのですが、反対側にはちょっとそこまではできないと聞いております。向こう側からほとんどの方が自転車で来られていると思うので、その安全対策について懸念をしている方が多くいらっしゃると思います、その辺についても何かお考えがあればお聞きしたいと思います。よろしくお願いたします。

市長：不法投棄の問題については、来年度の予算に向けて今色々と課題調整をしているのですが、特に不法投棄の問題は川崎区にとっても最重要の課題のひとつだと捉えていまして、どういう方策があるかというのを今真剣に議論しているところです。

特に、東扇島のところは、川崎に住んでおられないトラックドライバーの皆さんがどんどん捨てていくということで、事業者の皆様にも相当お願いして、そういうことはしないように協力をお願いしているのですが、なかなか末端まで伝わらないというのが現状で、ちょっと目を離すとどんどんまた膨れ上がってということで、今のところ抜本的な対策が打てていないというのが現状です。課題認識はあるのですが、残念ながらそこまでいたっていない。ですから、港湾関係の事業者の皆さんや立地している人たちと一緒にクリーンアップ作戦のような形で定期的に掃除はさせていただいているんですが、それでも追いつかないというのが現状です。いい方法がないか今知恵をひねりだしているところですので、もう少々お時間をいただきたいと思っています。

それから、小田栄の新駅設置ですが、あの地区は急激に住宅もできていますし、利便性もよくなるのではないかと考えていますが、今回は簡易的な駅ということで、JR東日本の戦略的新駅という位置付けで作るといことです。駅が上下のホームが別になっていて、対面式ではないんですね、少しずれていて上下線ということになっていて、そういう形状になっています。今おっしゃっていただいたように、小田側のところに100台の駐輪場を作るといことになっています。反対側はスペース的に確保するのが難しいということで、駅のところ、あそこの踏切を渡ったとこすぐのところは三角洲のようになっていてバス停がある、通行量もかなり多いということで、変形的な交差点ですので、非常に危ないとは思っています。しかし、実はあそこは交通事故が非常に少ないところでして、意外と危ないなと思っているところは交通事故が少ないんですね。何でこんなところで事故が起こるんだろうといところのほうこそ意識がないから事故を起こすといこと、あそこは非常に事故が少ないところなんです。

ただ、駅ができるということですので、自転車や歩行者、車などもしっかり分離できるように、例えばカラー舗装とか、あるいは少し盛り上げて分離することはできないか、どうやったら一番安全性を確保できるか今検討しているところですので、もう来年度からは駅ができてすぐ始業といことですから、それに向けてしっかりやっていきたいと思います。

松元さん：ありがとうございました。市長すみません、せっかくですので。さいか屋さんが5月に閉店されて、新しく跡地の活用で色々検討されているように聞いていますが、さいか屋さんの印象が非常に強かったものですから、川崎といえばデパートさいか屋、さいか屋といえば川崎というイメージが強いですね。ですからぜひ、日航ホテルさんもありますし、川崎駅周辺の知名度、イメージアップにつながるようなホテルか何かわかりませんが、誘致するようなことについても、よろしくお願ひしたいと思ひます。

釣谷さん：東燃ゼネラル石油株式会社川崎工場の釣谷と申します。横浜市の鶴見区に住んで



おりますが、仕事は川崎区の浮島のほうで働いておまして、車で普段通勤しています。個人的な質問等になってしまい申し訳ないのですが、川崎区はアクアラインにつながっていたり、電車も東海道線や京急などもあり、非常にアクセスがしやすく、交通網が発達しているという印象を持っています。一方で、車で通勤する上では、京急大師線の川崎大師のあたりや港町と京急川崎の間など、結構踏切が降りるところで渋滞したりすることが多く、通勤に時間がかかってしまうという個人的な不便さもあるのですが、周りの住民の方に排気ガスなどの問題もかかってくるので、渋滞を緩和するような策を取っていらっしゃるのか、あるいは策を取るような計画があるのであれば、教えていただきたいと思います。

もう一点が、これも個人的な話になってしまいますが、今1歳4ヶ月の子どもがいます、よく公園に行ったりとか、川崎区のほうに買い物に来たりするのですが、歩き始めたばかりで下に落ちているものがとても気になるんです。公園や川崎駅で遊ぶときに吸殻が非常に多く、下に落ちているのを見かけます。子どもが生まれるまではあまり気にしなかったんですけども、子どもが生まれて歩き始めるとやはり気になって、できればそういった路上喫煙、ポイ捨てをするような方のマナーを向上するような対策をぜひとってほしいと思います。路上喫煙に関しては集中的にやるというお話もありましたが、今まで路上喫煙を取り締まっている様子を見たことがないので、もっと見える形でやっていただくほうがいいのではないかとという個人的な要望も踏まえて、質問させていただきます。

**市長:** ありがとうございます。まず車の渋滞の話ですね、特に京急大師線は踏切が15箇所沿線にあるので、とにかく踏切だらけという印象があって、それがまちを分断したり交通渋滞を招いているということがずっと続いてきており、その課題を感じています。

京急は連続立体交差で基本的に全部地下化していきますので、踏切が解消するということですが、それにはまだすごく時間がかかります。交差点改良ということで大きな道路を作っていくには何十年もかかってしまうので、それまでにどうするか、早くやらないと経済的損失もとても大きいと思っていますので、緊急渋滞対策として今取り組んでいます。今年は高津区と多摩区のボトルネックになっている交差点を、交差点改良して警察とも相談しながら、ここの信号をこう切りましょうというようなことをやることによって、劇的に渋滞が緩和しています。今度それを、来年度になります、京急大師線の本町踏切のところですね、あそこで渋滞対策をするということで今検討に入っているところですので、そこで効果を出したいと思っています。

まだやらなければならないところはいくつもあるんですが、ボトルネックになっているところを、市内でまず4箇所やると。2箇所やって劇的な効果が生まれているので、来年度は本町踏切のところを川崎区ではまずやってみるということで取り組みたいと思っています。長期的なところと、短期でそれほどお金をかけなくてもできるところはやっていくという、二本の矢作戦で解消につなげていきたいと思っています。

それから、タバコのポイ捨てなども、今10名の嘱託の職員で巡回しながらやっているんですが、なかなか目に付かないというのは大変申し訳ありません。色々なシフトのやり方も含めて効果的なやり方をどうやっていくのかということをやりたいと思いますし、そ

れから今、喫煙率も低下していますし、かつ吸えるところが非常に限られてきて、マナー自体は上がってきていると思うんですが、その一方で皆さんの意識というのは、私も含めてですが、非常に上がっていきまして、そういう意味ではタバコに関する市長への手紙の数もとも増えていると思います。私も実感としてすごく増えているなという感じがして、そういったマナーだけでは難しいので条例も作ってやっているんですけども、よりいっそう力を入れていかなければいけないと思っています。喫煙者を排除するというではないのですが、吸う人も吸わない人も、J Tのコマーシャルのようになってしましますが、気持ちのいいまちを作っていかなければいけないので、マナーを徹底していくという、そういうものを作り出さないと、誰にとってもハッピーな良い環境にならないと思うので、いっそう頑張りたいと思っています。

**坂口さん**：東京電力川崎支社の坂口と申します。よろしく願いいたします。私は去年転勤してきたばかりなのですが、転勤してきて最初に思ったのが、市内を車で走っていても自転車が非常に多いというのがありまして、車で狭い道を走っていても、多くの自転車が行き来したりだとか、駅前を歩いている、後ろを振り向くとすぐ自転車がいたりだとかして、ひやりとしたことが何度かあります。駅前などは自転車専用道路が整備されていますが、そういったことももっと広範囲に広げていければいいかなと思いました。

また、小学校や中学校でも自転車に関するマナーなどの教育があれば、さらに安全安心につながるのではと思います。

**市長**：ありがとうございます。タバコもそうなんですが、自転車のマナーに対することについても市民の方からご意見をいただくことが非常に多いです。実際に自転車に関わる事故というのは増えていきまして、交通事故の件数自体は減っているんですが、自転車関連になると増えるという状況が続いていまして、どこの区に行っても言われます。麻生区と宮前区は山坂が多いので少し異なりますが、それ以外の5区ではすべて自転車に関する事故件数が増えていますし、特に川崎区は自転車事故の割合が県内ワーストに近い状況になっていますので、警察もここは力を入れていかなければいけない重点地区だということで、行政と色々協働でやっています。

特に、小学生中学生に対する自転車のマナー教室というのは、小学校3年生で必修でしたかね、確か全部の学年に対してマナーアップ研修というのをやっていますし、今効果的だと言われているスケアードストレートという見せ方、まさにスタントマンが出てきてぶつかる瞬間を見せる、これがどんなに重大な事故になってしまうのかというのを見せるというのが非常に効果があると言われていて、それも今川崎区でもしっかり取り組んでいるところです。これは道路交通法だとか言っても、危ないということを皆で意識しない限りはなかなかならないので困ったところなんですけど、これからもそこは力を入れてやっていきたいと思っています。

自転車専用道路については、駅前周辺にはだいぶできてきていますが、これをどんどん拡大できるかというところは実は結構限界があって、歩道もまともに確保できていないところに自転

車専用道路というのは非現実的などころもあって、できるところというのは非常に限られていると思います。ただ川崎区は最近、外国人観光客も最近増えてきていまして、自転車で行動するという方たちもちょっとずつ増えているんですね。そういったときにマナーの問題だとか、どう安全性を確保しながら回遊性を持って回ってもらうかというのもとても大事なことなので、どういう方法があるかというのはまだまだ課題がたくさんあるんですが、少し先のことを見て自転車で暮らせる、観光もできるというようなものを作っていかなければいけないという課題認識を持っています。

**永盛さん**：横浜銀行川崎支店の永盛と申します、いつも色々ありがとうございます。私は特に質問ということではないのですが、在勤市民として日頃感じている印象などを少しお話しさせていただこうと思っています。

川崎市の印象ということで言いますと、まだ人口の増加が続いておりますし、企業も多く活気あふれるまちということで感じています。比較的色々な意味でリテラシーの高い人や企業が集まっているのではないかなと考えておりまして、行政としても新しいことに取り組んでいくにはやりやすいまちなのかなというふうに考えています。私も赴任して2年になるのですが、市長も就任されて2年になられて、色々な形でインフラの整備とか、待機児童の問題とか、中学校給食とか、またはこういった車座集会に取り組まれていまして、それが着実に今後は結果を出していくのではないかと考えています。

そういった成長していく都市というポジティブな側面もある反面、時々残念な事件だったり事故だったりとか、あとはまだ色々な課題が残っているのかなと考えておりまして、より高度な都市をめざしていただく上では、市民の方とか、こういった企業市民のように民間の力を取り上げられていますので、さらに活用していただく方向で色々検討していただきたいと思っています。資金面のほうでもPFIだったりPPPだったり色々な手法があると思いますが、あとは社会活動の面では、こういった川崎区さんがやられているように企業市民活動の推進の取組だったりとか、そういった社会資本などを活用していただいて、色々な課題に取り組んでいただきたいと思っています。

あとは通勤を通じて見た川崎市なんですが、皆さんからもすでに色々とお話が出ているんですけども、やはり私はJRの川崎駅を使わせていただいております、インフラのところもそうなんですが、動線のところが非常に厳しいなと毎日感じておりまして、やはり色々なところからたくさんの方々が勤務するために集まっていらっしゃるので、皆さんが笑顔で一日の仕事に取り組めるように、やはりどうしても朝、皆さんの顔を見ていると険しい顔になってしまっているように思いますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思っています。

それからお子さんの教育については、こういった出張授業なども非常に有効だと思いますし、先程市長もおっしゃっていましたが、自己肯定感の低い方が多いのかなと私も感じておりますので、ぜひ多年代の交流などを通じて、色々な形で将来が見通せるような教育体制を作っていただくようお願いしたいと思います。

**市長**：多岐にわたるご意見、ありがとうございます。川崎のポテンシャルというのは特に、

羽田の位置付けが大きく変わったことによって、この土地の持っている、首都圏の中での川崎の位置付けが大きく変わってきて、首都圏の中から見られているその期待だとか、あるいは私たちの持っている使命だとかミッションというようなものがすごく大きくなってきていると思います。そういった意味で、これから臨海部はさらに成長する地域だと思っています。今ちょうど議会にかけているところですが、臨海部だけの政策を練り上げていく局相当のものを新たに作ってやっていく、そこで一元的に取り組んでいくということにして、川崎は7区ある中でもやはりこの臨海部というのはこれからもさらに日本のエンジンになる場所だと思っていますので、そこは企業市民の皆さんと協力しながら経済を引っ張るということと、もうひとつは今日やっていただいたような地域に根差した取組をとということで、ここで何を生み出すんだということを皆さんと一緒にやっていきたいと思っています。

**羽山さん：**蕎麦膳はやまの羽山と申します。今回、川崎区でも大師地区で商店をやっている者として質問させていただきます。大師地区は先程お話にあったように羽田に隣接しています。2020年のオリンピック開催を前に、外国人のお客さんもだんだん増えていくと思います。川崎大師というランドマークを抱えるこの大師地区、地元商店としても地域を盛り上げる気概を持っておりますが、川崎市として、観光地としてこの地区をどのようにとらえているのか、今後の展望もあればお聞かせいただければと思います。

**市長：**川崎で何が有名ですかというのと、やはり川崎大師というふうに、他都市や他県から来られた方はやはり川崎大師と大体言われるくらい、川崎大師はこれまでもこれからも川崎の拠点だと思っています。特に海外からのお客様がかなりこの一年で増えていますよね。実はこの前、京急電鉄さんと色々な話をしましたら、羽田空港から降りて次の国にトランジットする間に大体4時間くらいここで空白が生まれるんだと、それでこの4時間をどういうふうに過ごしてもらおうかと考えたときに、京急としても川崎が一番なわけです。ですから川崎市と京急さんと今3国、中国と韓国と、タイだったかな、英語と何か国語かのガイドマップを作って、羽田空港で降りて3、4時間あるなという人たちが川崎に来る、それで川崎に来た人たちが買い物をしたり、大師を参拝してまた帰ってどこかの国に飛んでいく。この4時間の空白は私達にとっては非常に有効だと思っていて、戦略的に取り組んでいく必要があると思っていますので、ぜひ大師の皆さんにも、羽山さん中心に若手の皆さんにもぜひ協力してもらいたいと思っています。

今年の風鈴市のときですね、ヨーロッパの方々が10人くらいでお見えになったときに、来られたお客さんに「今日風鈴市があるからぜひ行ってください」と言ったら、行って見たとのことで、非常に評判でした。ちょうど音楽関係者だったので、風鈴の音がとても良いと。風鈴の音色が分かるのは日本人くらいだと聞いたことがあったので、本当かなと思ったんですが、すごく感動していました。ですから、ああいう日本的なものというのはどんどん見せていく、うまく相手に伝わるように戦略的にPRしていく方法というのをこれから考えていき、かつ大師の商店街の皆さんにも、どうやったら来てもらえるかというコンテンツ作り、そういうものを一緒に開発していければいいなと思っています。

ちょうど今、川崎市の観光振興プランを作っているところでして、その中の重点拠点の中に大師地区が入っていて、今まとめているところですから、ぜひ一緒になって盛り上げていきたいなど。最高の観光資源を持っているので、あとはどう使うかだと思っています。インフラ的にも、個人的には、あの参道のところももう少し改良の余地があるのではないかと思います。まだまだやれることはたくさんあると思いますので、一緒によろしく願います。

**笹原さん:** かわさきタウンマネジメント、かわさきTMOの笹原です。お世話になっております。今日質問ということで3項目出ささせていただいたんですけども、一つ目が、川崎市が他都市と比べてどこに優位性を持っているかと市長がお考えなのかということ伺いたいのと、二番目が、今話に出ましたが、国際化ということでどうやっていこうかなということ色々議論しているので、その辺のお考えがあればということで、今聞かせていただいたんですけども。

三番目が一番重要で、市民参加という形で書かせていただいたのですが、今日の議論をずっと聞いていて、数えたら12の質問の中で6つがかなり都市的な話でした。今川崎TMOではまさに駅周辺のタウンマネジメントをやっていて、ゴミはどうだとかタバコはどうだとか色々皆さん熱心なものですから、どうやって直していこうか、またそれを整理していこうかということ民間の組織としてやっているということがありますので、そういうことを考えていきますと、冒頭の子どもの話もそうだと思うんですが、ひとつのことから何かを解決しようとしても難しい。行政がさっきのタバコとかゴミだとかを全部解決するのは無理だと思うんです。そうしたときに、どういう形でみんなが連携するのかと。住んでいる人もやらなければいけないだろうし、商売をやっている人もやらなくてはいけないだろうし、歩いている人ももしかしたら参加しなければいけないしというような構図を作らないと、ゴミもタバコも客引きも、はみ出し条例も、まちを作っていこうということであればそういうことをやりたいなと思ってまして、その時に一番大事なのが、これが一番聞きたいことなんですけれども、行政のやり方というのは、市が頑張ってるのではなくて、何らかの形で民間とどうやって連携していくのかと、どう組んでいくのかということがすごく大切で、それが多分新しい公共というものを作っていくだろうと考えています。

TMOではそれをまさに具体的にやっていこうと思っているんですけども、新しい、民間にどういう形で連携を図っていくのか、先程の南口の話ももう随分言わせていただいております。それから客引きも今一所懸命やらせていただいております。これも市長への手紙から始まったんですけども、銀柳街とかその通りに看板がはみ出していたり、歩いていると歩道がほとんど通れなくなっている、川崎の駅前のまちがこんなことでは駄目だということで、これは自分たちで何とかしなければいけないと、当然市にもやっていただくんですけども、自分たちでやろうよと言って一所懸命(看板を)下げている、一年がかりで、大分変わったかなというふうにご覧になっている方もいらっしゃると思うんですが、そういうことをやるためにはどうしても行政と民間がいかに手を組むかということが大事かなと

思いまして、ぜひお考えを聞かせていただければと思います。

**市長**：ありがとうございます。川崎の強みは、先程も申し上げたように羽田の隣接、世界の玄関口にいるということになりますし、ちょうど連絡橋ができますので、空港の中に私たちが入っていくというイメージにもなってくるかと思っておりますので、たぶん海外や他都市から来られる方たちも意識が変わってくると、リアリティをもってそうなるかと思っております。特に川崎は多様性のあるところですので、多様性こそ可能性だと思っております。川崎はやはりそもそも5万人で集まったまちがこれだけ大きくなって、ほとんどが、海外の方も含めて、他都市から移り住んできた人たちの集団ですよ。そういう意味では本当に多様に富んでいる、受け入れる受容性も持っているのが川崎市民だと思っております。ですからこの多様性を大事にしていくことが、さらなる川崎の成長につながっていくと思っております。やはり、私は多様性が可能性というのが川崎の最大の強みではないかと思っております。

それと、市民参加でまちづくりをしていくというのは、何でも行政が解決できるとはまったく思っておりませんし、いかに民間の人達と連携していくかということだと思っております。例えば、今ご指摘いただいた客引き防止条例なども、今議会で提案していますが、これは条例を作ることは行政がやります。しかし、作ったから本当に客引きがなくなるかというところはならないと私は思うんですね。まさに周りにいていただく地域の人達の事業者の皆さんや市民の皆さんの協力があって初めて、そういった行為がなくなると思っておりますので、そういった意味ではお互いの持っているツールを出し合って、一つの解決策を求めていくということに力を入れていかなければいけないと思っております。

特に福祉だけではなく、教育もそうなんですが、これから地域包括ケアシステムというものを整えていきますが、なるべく中学校区単位くらいでの小さなエリアで顔の見える関係を作っていく、それが教育的にも福祉や医療の分野でも大事だと、こういうものを作っていくわけですけれども、行政はやはりコーディネーター役ということで、色々な多様な主体を結び付けていくコーディネーター機能が大事ではないかと思っておりますので、そういう機能をこれから色々な分野で担っていきたいと思っておりますし、これも先陣を切っていくのが、まさに各区ということでありまして、一番重要な、川崎市にとって区役所が一番大事なんですね、ですからそこをこれから意識的にやっていきたいと思っております。

それからもうひとつは、民間の方々とコラボレーションするには私達が持っている情報を共有していかなければならないと思っております。行政の持っているデータというのは莫大なところがあり、情報の宝みたいなものですが、それをうまく使って共有することで、なるほどこういうことだと、だから問題解決につながると、民間の人達や市民の方達も加わってくると、こういうものだと思いますので、やはり情報共有こそ解決のスタートかなと思っております。

**笹原さん**：まさにおっしゃるとおりで、市のほうもTMOの情報がほしいと、つまり具体的に動かそうとしたときに行政の情報だけでは足りないということがありました。大変心強いお話を伺いました。

それで、これは言っているのかどうかわかりませんが、TMOはそういう形でコーディネータしながら動いているんですけども、たぶん来年度予算がカットされるか、なくなりそうなんです。市長として、民間とこういうふうにやっつけようということと、ではそうするとせっかく集まっていた事業者たちの集まりが途切れそうな形になっておりまして、今までの条例の話などもどうなるのかなと、この場を借りてお聞きしたいと思います。

市長：ちょっとそれは初耳なのですが。

笹原さん：今お答えいただかなくても結構ですので、そういうことがあるということだけお伝えしたいと思ひまして、よろしくお願ひいたします。

### (フリー意見交換)

青木さん：青木と申します。今日は質問をするというよりもお願ひです。二つありまして、一つは市の財政、今週の日経を見て、非常にびっくりしました。歳出と歳入の経常収支の比率の余裕がないところ、これの一番が京都、二番が川崎、それから名古屋、大阪と続いていました。たぶん少子高齢化で社会保障が伸びてきますから、この傾向は日本どこでも同じだと思います。ただ川崎市は流入人口が多いですから、市の税収は、社会保障の伸びよりも、5年先、10年先、ピークアウトになると思いますけれども、それまでは余裕があるかなと思っていたんです。ところがポイントはやはり、社会保障の伸びが税収よりも大きいということが一番の理由かなと思ひています。

それで、今情報の話がありましたけれども、我々が一番知りたいのは、やはり市の台所事情、これがどうなっているのか、たぶん市内では3年、5年、10年というスパンで収支のプログラムを組んでいると思うんですが、それをぜひ市民に開示してほしい、情報をデスクローズしてほしい。そういう情報がないと、市にとっては不都合な情報がなければどんどん出していただいて、たぶんこれから福田市長がおやりになるのは、決められた原資は同じなので、優先して執行しなければいけないものと、例えば子どもとか社会保障だとか色々な項目があると思いますが、たぶんどこかで痛みを伴う、補助金を切るとかそういうことをこれからやらなければいけないところに来ていると思うんです。そういう意味ではぜひ台所事情を見せていただいて、限られた原資を優先事項に特化すると、そのときに切らざるを得ないところ、そういうところを早く市民とコンセンサスを取らないと、やはり台所事情を情報開示しないと、台所事情を知れば、民間の利活用とか事業の見直しとかいうことで、少しは市の財政も持続可能なものに動いていくのではないかと、ぜひ情報開示と民間の利活用、そこに住民が入れば一番うまく回っていくんじゃないかと。言うのは安いですが、そういうことでぜひ情報開示と民間の利活用、この辺のところの特化して、苦しい台所事情をぜひ見せてほしいと思ひます。

市長：ありがとうございます。台所事情を知っていただくことはとても大事です。情報開

示という意味では、私達も積極的に広報しているつもりで、隠しているというか、都合の悪いこともあるでしょうがとおっしゃいましたけれども、全くないです。全部オープンです。かつ、財政読本のような形で今の川崎市はどうなっていますよ、台所事情こんな形ですよ、借金どうなっていますよということで、一番分かりやすい冊子を作って、あらゆる手法でやっているんですが、先程國分さんもおっしゃったように、ぜひ私が市民の皆さんに逆をお願いしたいのは、見に行くことです、インターネットで引けばすぐですから。クローズドしているわけではないんです、フルオープンなんです。ただ、見てくださいと思うんですね。このことを、市民もやはり見る努力をしていただきたいなど。

私たちは伝える努力というのはこれからもこれまで以上にやっていかなければいけない、こういうことをやりたいけれども実はこれだけしかお金がないと、そういうことは今おっしゃったように説明していかなければいけないし、例えば今見直している手数料使用料の問題だとか、市民にとっても痛みというのがこれから出てきます。そういうものを説明していく中でも、今元々の台所事情がこういうことなんですということを御理解がない中で、切るだけの話というのはたぶん納得がないですよ。皆の財布ですから。皆の財布の中で、今使うべきなのは優先順位をつけて、例えば10個あるけどまずはこの3つからかなとか、ということコンセンサスを得てやっていかない限り、誰かがやっているんだろう、誰かがどこかで決めてやっているんだろうというところには、市民の納得感はないと思います。

そういう意味では、私達も市民の皆さんに対して積極的な広報、情報はオープンです。だけど、オープンになっている情報をどうやって積極的に伝えていくかというのが私たちの仕事です。でももう一方で、市民の皆さんも見てもらうということはこれからもお願いしなければならぬし、そこがないと、情報共有しましょうよといっても見て下さらないうちは話が前に進まないと思っています。先程國分さんが良いことをおっしゃっていただいたと思うのは、やはり自分達もチェックしなきゃいけない、見に行かなくちゃいけないということ。ぜひ青木さんも、フルオープンですから。

**青木さん**：それで、一番大事なのは、たぶん目標を決めていると思うんですよ。こないだの新聞では98パーセントくらいでしたか、経常収支の比率、少し赤字になっていますけれども、それをどこかでイーブン又は黒字にしなきゃいけない。そういうPDCAをたぶんお作りになっていると思うんですよ。それがどうなったか。毎年あるタイミングで、これだけうまくいったとか、色々な事情で悪くなったとか、そのプロセスをやはり見せてほしい。

**市長**：日経の経常収支比率のデータだけ見ると、非常に衝撃的な数字だと思います。でもあれでもって財政のことを全部見ようと思ったら完全に間違いです。地方財政は非常に複雑な仕組みになっていまして、あれだけ見てしまうと川崎市は大変なことになっているんじゃないかという誤解をされると思います。ただ、あれだけ見ると本当にここからしか見ていませんし、片寄っているんですね。ですから全体としての財政は今どうなっているのかということぜひ見ていただきたい。ここで財政の話をするとう講義時間になってしまいますので、毎年財政読本を出して状況がどうなっていますということをご説明していますから、ぜひ見て



いただきたいなと思います。簡単に書いてありますので。

特に、私は毎年投資家相手に年に1回、それから市民の皆さんに対して1回、市債を買っていただくためにIRの説明会をしています。今の川崎市の財政がどんな状況で将来見通しがこうでということをお話しています。そういう人たちに対して、クローズドもディスクローズもあり得ないわけですね。ですからそれを見越して川崎市はなるほど健全だということでもランク付けされ、一番いい形でランク付けされていますね。そして買われているということでもあります。ぜひ見ていただくとわかりやすいのではないかなと思います。

### **(3) まとめ**

皆さんどうもありがとうございました。朝からまだ皆さんお昼も食べていない状況で、長時間お付き合いいただき本当にありがとうございました。区民車座集会在こういう形でできるのも川崎区ならではだと思います。企業市民の方たちがこうやって集まっていたいて、かつ午前中に子ども達に対して教えていただいて。企業の方たちが教えていただけるということこんな素晴らしい機会はないので、ぜひ他の区でもどんどんできればいいなと思うんですが、そういう人たちを探してもっともっとこういう活動ができればと思っていますので、それぞれお忙しいお立場だと思いますが、引き続き、子ども達のためによりしくお願いしたいと思います。

今日は本当に、貴重な御意見も御質問もいただきありがとうございました。これからもよろしくお願ひいたします。